

そうさく かねば  
惣作・鐘場遺跡

所在地 瀬戸市惣作町、鐘場町地内  
調査理由 県道瀬戸設楽線建設  
調査期間 平成15年7月～平成16年3月  
調査面積 4,850㎡  
担当者 藤岡幹根・酒井俊彦・鶴飼雅弘・武部真木



調査地点 (1/2.5万「瀬戸・猿投山」)

**調査の経過** 調査は県道瀬戸設楽線建設のため愛知県建設部道路建設課から愛知県教育委員会を通じて委託を受け、平成12年度より実施している。平成12年度は遺跡範囲の南部、平成13・14年度は南部および北部の調査を行った。先年度までの延べ調査面積は15,700㎡である。これまでの調査によって後期旧石器時代末から近世までの遺構・遺物が検出された。今年度は、遺跡北部、中央と南部に各1調査区を設定して調査を実施した。

**立地と環境** 惣作・鐘場遺跡は瀬戸市東部の惣作町・鐘場町に所在し、矢田川支流である赤津川の左岸の標高170m前後の2段よりなる洪積河岸段丘上に立地する。遺跡は赤津川と門前川を西限及び南限とし、北側と東側は山地を北限及び東限とする。遺跡範囲の北部は大目神社の所在する山塊からのびる尾根状の段丘上に位置し、惣作川を挟んで地形的に2つに別れる。周辺には南側に太子縄文遺跡、太子遺跡、北東部の山地部に大目神社古墳、巡間E窯跡、瓶子窯跡、凧山C窯跡、凧山窯跡、凧山屋敷遺跡、凧山A窯跡、赤津川上流に長谷口遺跡、八王子遺跡がある。

**調査の概要** 今年度の調査区として、遺跡範囲の南部00A区と01B区の間に03A区、中央部に03B区、遺跡北部の02A区の東側に03C区を設定した。

**03A区** 北東から南西にのびる上位段丘面上に位置する。西側は下位段丘に移行する傾斜地、東側は門前川の河谷である。旧地形は段丘の最上部の平坦面を中心にした緩やかな傾斜地であるが、現状では階段状の耕作地となっている。

検出された遺構は古墳時代後期及び中世から近世にかけての時期に属する。古墳時代後期7世紀代の竪穴住居1棟が検出された。遺存状況は悪く、須恵器などの少量の遺物が出土した。中世については、調査区北部で現道に沿う位置に13世紀から15世紀の時期の溝1条を検出した。また、調査区南部の段丘端部で近世の溝2条、土坑1基を検出した。

**03B区** 上位段丘面の頂部を中心にした位置にある。東側は、門前川の河谷の傾斜地に面する。西側は下位段丘面に向かう緩やかな傾斜地である。調査区の西部は近年の耕地整理によって階段状に削平されており、基本層序として現耕作土下が段丘の基盤面となる。出土遺物としては、縄文時代から戦国時代の遺物が検出されたが、主な遺構の時期は、弥生時代後期、古墳時代後期、中世および戦国時代である。

弥生時代後期については、調査区北部に土坑2基を確認した。SK141からは比較的まとまって遺物が検出された。

古墳時代後期は、6世紀前半から7世紀後半までの時期に属す竪穴住居址14棟を確認した。近年の削平によって遺存状況が悪いものもあるが、全体に掘り方が深く、遺物の残存状況の良好な竪穴住居址がある。竈の遺存状況は悪く、構造が判明する良好なものは

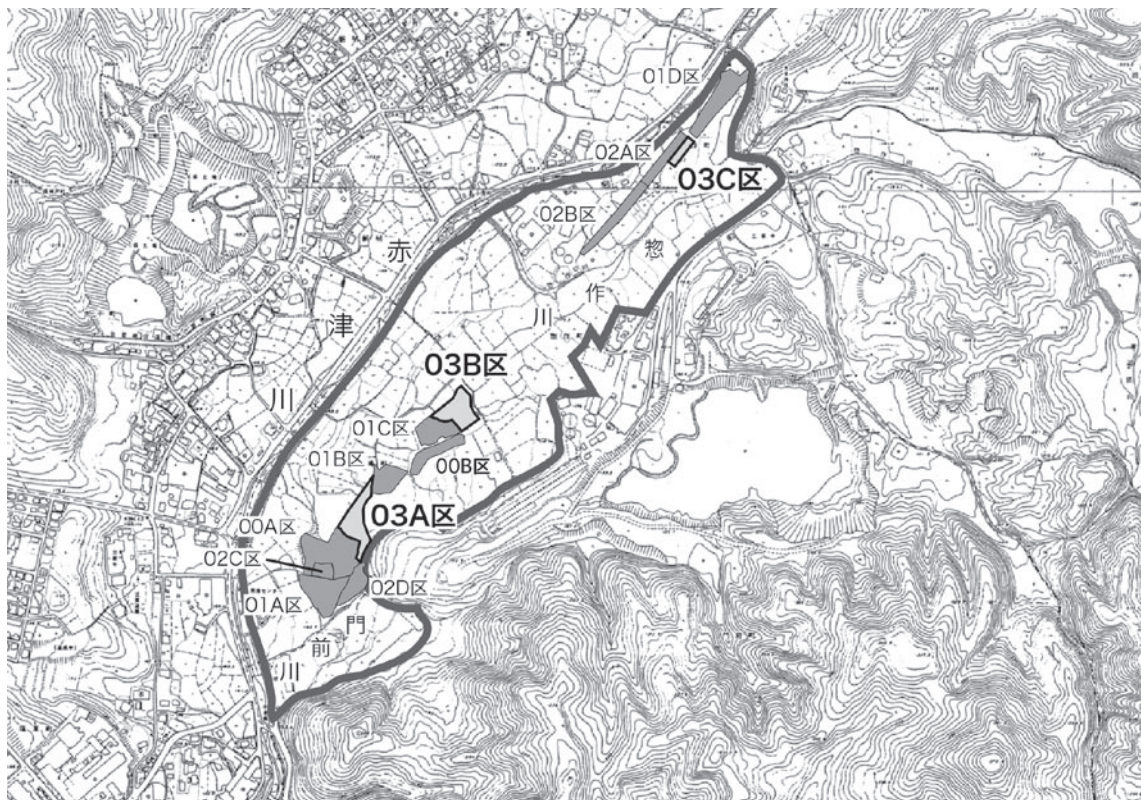
ない。焼土、粘土、炭化物が塊状に集中しているものが多い。竈の位置は、検出できたもので北辺あるいは北西辺にあるが、SB05は南東辺にある。SB01・09は竈の張り出しが認められる。柱穴は明瞭に認められるものは少ないが、床面に比較的深い掘り方をもつものがある。周溝は大部分の竪穴住居址で認められた。SB03は遺物の遺存状況が比較的良好で、北東辺の中央部分と東隅で完形に近い土師器甕の個体が床面上で検出された。また、竈付近及び床面直上より須恵器杯、土師器甕などが比較的多量に出土した。竪穴住居の時期的変遷については詳細は不明であるが、2～4棟が同時に存在したことが推定される。

中世については13世紀代の井戸(SE01)が確認された。内部に方形の井戸枠の痕跡が検出された。調査区全体にこの時期の小土坑が検出され、掘立柱建物群が展開することが予想される。また、戦国時代の大型の土坑2基(SX01・02)を検出した。平面形及び掘り方は不定形である。埋土はブロックの斑土で、埋め戻しが行われている。瀬戸窯産施釉陶器より16世紀前半の時期と考えられる。

調査区東隅の自然地形の落ち込み中の縄文時代中期の包含層より深鉢1個体が検出されたが、調査区内で自然地形のわかる範囲が狭いため今後の検討が必要である。

**03C区** 大目神社古墳の所在する丘陵より延びる段丘の上位段丘面及び下位段丘面に相当する。主な遺構としては古墳時代後期7世紀代の竪穴住居1棟を検出した。近年の耕作による削平が著しく遺存状況は悪い。少量の須恵器、土師器が出土した。

**ま と め** 昨年度までの調査では、古墳時代後期は7世紀代のみの竪穴住居が確認されてきた。今回の調査では6世紀代の時期の集落が検出され、遺跡全体では古墳時代全般に集落が展開することが確認された。今後は、同時期の周辺遺跡の動向を含めて集落の消長を検討する必要がある。(酒井俊彦)



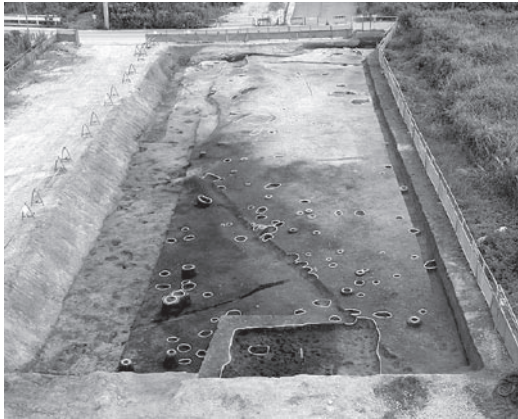
調査区位置図 (1 : 10,000)



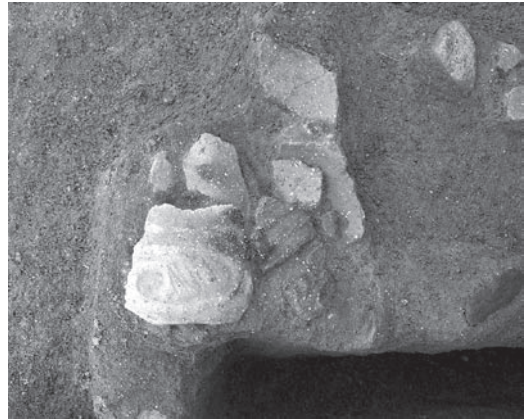
03Aa区全景 (南より)



03B区全景 (南西より)



03C区全景 (南西より)



縄文土器出土状態 (03B区)



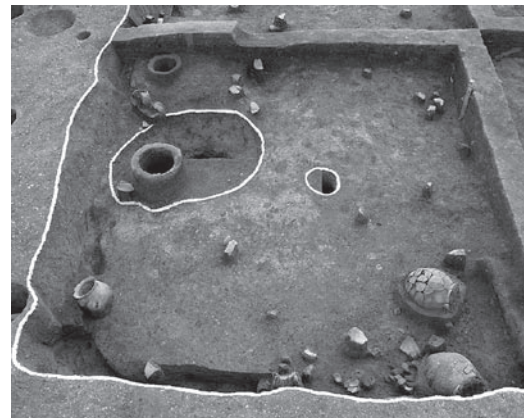
縄文土器出土自然地形 (03B区)



古墳時代竪穴住居址群 (03B区)



03B区SB03遺物出土状況 (南西より)



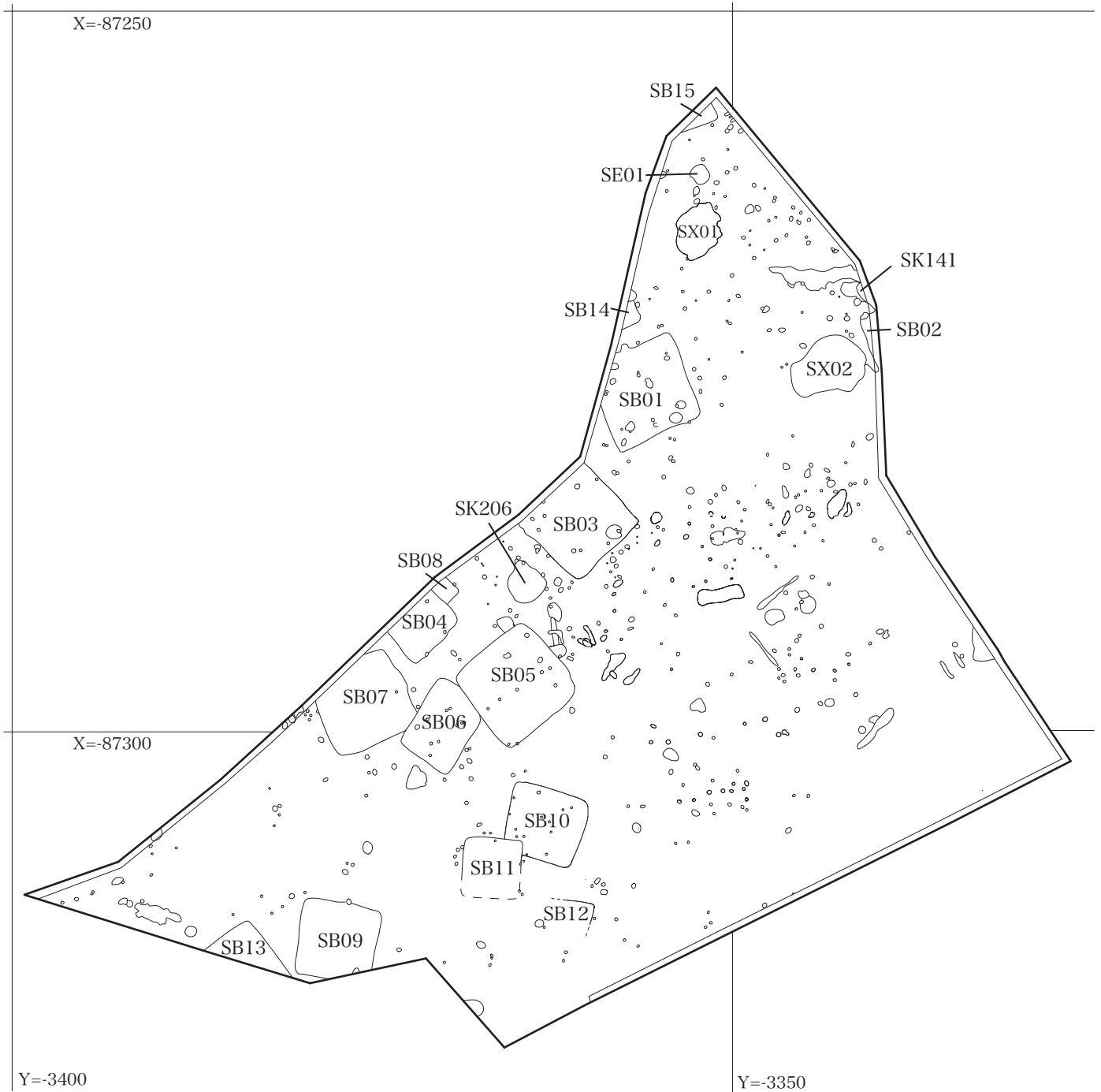
03B区SB03遺物出土状況 (北東より)



03B区SB03土器甕出土状況



03C区SB01完掘状況（東より）



03B区遺構平面図（1：400）